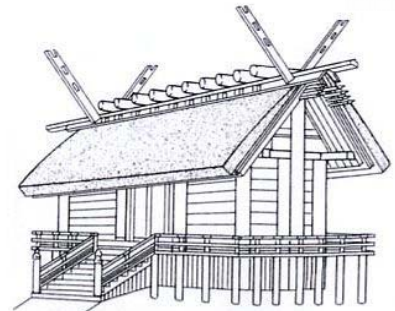




『式年遷宮（20年という時間）』

最も古い建築様式、神明造（しんめいづくり）で建てられた本殿は板塀で囲まれ、庭は大小の石が敷き詰められています。中央の通路は天皇の参拝時に使われるのか、門から白い玉砂利が本殿まで続いています。本殿からかなり離れた位置に横一列、石が並べられ一般の参拝はこの石列の外からです。神主に先導され横列に並び作法にのっとり、二礼・二拍手・一礼。大勢で参拝しましたが、拍手の音以外は全くの静寂、厳粛なお参りでした。



神明造（しんめいづくり）

今回、一日神領民として参加させて頂いた『お木曳き行事』は平成25年の遷宮に向けた、新社殿のご造営に伴うものです。式年遷宮（しきねんせんぐう）の始まりは持統天皇四年（690年）内宮で行われてから1300年余り続いています。

式年遷宮の行われる20年という時間を自分に置き換えて、振り返ってみました。40年前、まだ学生の私はスポーツに明け暮れ、体育館のコートを走り回る毎日でした。その3年後に衣川製鎖工業（株）入社。20年前、社長に就任して2年目、社業の発展を目指し造船不況もなんのその、燃える情熱で顧客の新規開拓に邁進。『夢通信』を始めたのもこの頃です。今年60歳を越え、鎖の歴史や鍛冶屋のこと、鉄やステンレス鋼のこと、古代の技術などをホームページと『夢通信』に書き綴っています。

青年の時、壮年、円熟の時代、思考と知力・体力が大きく変化します。式年遷宮では神領民がそれぞれの年齢でこの大事業に関わり続け、伝統を維持しているのでしょう。その永い永い営みに驚きを感じます。

伊勢神宮の式年遷宮20年に関する諸説。

1. 建物が「清浄さ」を保つ限度が20年程度である。
2. 建替えの技術の伝承が、当時の寿命から適当である。
3. 旧暦で11月1日が冬至となるのが19～20年に一度である。



式年祭 : 神道で一定の年を決めて行う祭儀。皇室の式年に準じる。
式年（しきねん） : 歴代天皇・皇后の式年祭が行われる年。崩御（ほうぎょ）の年から3・5・10・20・30・40・50年後でその後は100年になる。
式年遷宮 : 神道で、一定期間ごとに社殿を新造し、旧殿から神体を移す行事。
（しきねんせんぐう） 伊勢神宮では20年ごとに、宇佐神宮は30年ごとに行う。

参考図書 日本語大辞典 講談社 1989年

ホームページと電子メールをご利用ください。

URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>
<http://www.kanamonoya.co.jp/ryou@memenet.or.jp>

むらの鍛冶屋®



何でもお気軽にお尋ねください！！